



ヒバクシャ地球一周 証言の航海  
Global Voyage for a Nuclear-Free World  
Peace Boat Hibakusha Project

PEACE  
BOAT

〒 169-0075  
東京都新宿区高田馬場  
3-13-1-B1  
TEL: 03-3363-7561  
FAX: 03-3363-7562  
<http://www.peaceboat.org>

2025年3月

ピースボートVoyage120  
「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」  
参加者 略歴

■プロジェクト被爆者



**伊藤 正雄(いとう まさお)**

広島被爆 1941年1月31生まれ 被爆当時4歳  
広島県広島市在住

爆心地から3.5km地点の自宅前の道路で三輪車に乗って遊んでいるときに被爆。爆風により吹き飛ばされるも軽傷ですみ、逃げ込んだ防空壕で黒い雨に遭う。被爆後数日間、家の近くの公園で数えきれないほどの遺体を茶毘に付す様子が脳裏に焼き付き、いまだに忘れられない。

2010年、ヒロシマピースボランティアとして活動を開始。2012年から広島市の伝承者養成事業に参加し継承活動に尽力。現在まで、広島を訪れる世界からの旅行者を資料館に案内し続けている。



**倉守 照美(くらもり てるみ)**

長崎被爆 1944年1月8日生まれ 被爆当時1歳  
長崎県長崎市在住

爆心地から5.8kmの地点で被爆。母親と幼い兄姉と一緒に防空壕へ避難していたため無事。被爆当時1歳であり記憶はないが「長崎を最後の被爆地に」という想いから多くの活動に尽力してきた。

2017年3月には高校生1万人署名の高校生たちと在韓被爆者と被爆証言や交流・意見交換などをおこなった。2024年12月、「祝！日本被団協ノーベル平和賞授賞式行動ツアー」(原水爆禁止日本協議会とピースボート共催)で、授賞式のパブリックビューイング、ノルウェーの平和団体主催イベント、松明パレードなどに参加。

## ■プロジェクト水先案内人



### 福島 富子(ふくしま とみこ) 横浜～シンガポール

長崎被爆 1945年1月21日生まれ 被爆当時生後6か月半

神奈川県原爆被災者の会(日本被団協の神奈川県組織) 副会長 葉山支部 会長

爆心地より2.5kmの自宅で被爆。自宅と爆心地の間に小高い丘があり直接的な被害を免れる。4歳の頃に家族より一人離され親戚の家に預けられて、被爆を知らずに育つ。

親戚の家で着物に親しみ、現在はPeaceの文字を刺繍した平和の帯で被爆証言をおこない、2022年核兵器禁止条約第1回締約国会議から2025年の第3回同会議まで大学生にその平和の帯を託す。被爆当時の記憶はないが、2024年4月より現在94歳の長崎被爆者の交流証言者に認定され、講話活動をおこなっている。2015年、NPT再検討会議要請代表団としてニューヨークへ渡米。2024年12月、「祝！日本被団協ノーベル平和賞授賞式行動ツアー」に参加。



### Mary Dickson(メアリー・ディクソン) ベルゲン～ニューヨーク

脚本家、風下住民

作家・脚本家・ユタ州ソルトレイクシティ出身の風下住民、甲状腺がんサバイバー。核実験被害者への援助を国際的に訴える活動家。日米の学会やフォーラムで核兵器の人間への影響について幅広く執筆や講演活動を行う。過去4年間、風下住民やウラン鉱山で働く労働者、また米国各地の支援団体と共に、核実験と核兵器製造による被害者への補償を拡大するよう米国議会での法案制定のために尽力してきた。ドキュメンタリー映画でのインタビュー多数。戯曲『Exposed』は批評家から絶賛され、全米各地のステージ上での朗読作品として上演されてきた。2012年、核実験被害者たちのために行った長年の功績が認められAlliance for Nuclear Accountability(核のアカウントビリティのための連合)から栄誉を称えられた。



### 渡辺 淳子(わたなべ・じゅんこ) ニューヨーク～プンタレナス

広島被爆 1942年11月28日生まれ 被爆当時2歳

ブラジル在住

広島で爆心地より18km 地点にて黒い雨を浴びて被爆。1967年に結婚を機にブラジルに移住をした。38歳の時に広島に里帰りをした時に、両親より被爆者であることを告げられる。2003年にはブラジル被爆者平和協会に入り理事として携わる。在外・国内被爆者と差別の無い援助を求め日本政府との交渉やブラジルでの被爆証言・放射能被害者との交流をしてきた。2013年から被爆証言を盛り込んだ演劇を始め、これまでに57回公演を実施した。

2024年12月、日本被団協代表団の一人としてオスロを訪れノーベル平和賞授賞式や晩餐会などの公式イベントに参加したほか、「ヒバクシャと若者の交流」をテーマとする被爆証言会でもノルウェーの高校生へ向けて証言を行なった。